

[教育実践研究報告]

デイケアにおける看護学実習での学生の学び  
- 実習記録の分析より -

原 敦 子      小 野 幸 子      林      幸 子      坂 田 直 美  
奥 村 美奈子      田 中 克 子      兼 松 恵 子      小 田 和 美  
梅 津 美 香      古 川 直 美      北 村 直 子      齋 藤 和 子

What Students Have Learned through Nursing Practice at a Day Care :  
Analysis of Students Report

Atsuko Hara, Sachiko Ono, Sachiko Hayashi, Naomi Sakata,  
Minako Okumura, Katsuko Tanaka, Keiko Kanematsu, Kazumi Oda,  
Mika Umezu, Naomi Furukawa, Naoko Kitamura, and Kazuko Saito

はじめに

本学は平成12年度に開学し、平成14年度に初めて3年次に領域別実習として位置づけている「地域基礎・育成期・成熟期看護学実習」が行われた。この領域別実習における成熟期看護学実習の目的は、「さまざまな健康状態で生活を営んでいる成熟期の人々への看護実習を通じて、成熟期看護のあり方について理解を深める」であり、学生は一般病院および高齢者ケア施設（介護老人保健施設もしくは介護療養型医療施設）の各々1カ所において、成熟期の人を1～2名受け持って看護実習を行う。また、目的達成のために、在宅で生活している高齢者の理解と支援の学習として、高齢者ケア施設における実習中に「在宅サービスを利用しながら生活している高齢者の理解と看護の役割の理解を深める」ことを目標に、施設に併設されている通所リハビリテーション（以下、デイケアと省略）で「在宅サービスを利用している成熟期の人とその家族への看護実習（以下、デイケアにおける看護学実習と省略）」を1日位置づけている。この1日のデイケアにおける看護学実習で学生にどのような学びがあったのかを明らかにすることは、実習を評価し、今後の実習のあり方を検討する上で意義があると考えられる。

本研究の目的は、学生がデイケアにおける看護学実習を通してどのような学びがあったのかを明らかにすることである。

とである。

． デイケアにおける看護学実習について

デイケアにおける看護学実習は、高齢者ケア施設での実習期間中に、併設されているデイケアで各学生1日、1～5名に分かれて体験する。教員は、事前にデイケア担当者に成熟期看護学実習の目的とデイケアにおける看護学実習の目標、方法、学生のレディネス等を説明し、実習方法を打ち合わせる。学生には事前にデイケアにおける看護学実習の目標および記録用紙の構成と記載方法を説明し、実習中は記録用紙の構成を意識し、体験して疑問・不明なことは積極的に質問するように指導する。また、介護保険制度やデイケアの機能など、これまでの授業の復習や必要に応じて事前学習するよう指導する。学生は、高齢者ケア施設での実習初日もしくはデイケアにおける看護学実習当日にオリエンテーションを受け、当日は送迎を含めたデイケアの1日の流れを利用者とともに体験しながらケアに参加する。実習後、可能な限りその場でデイケア担当者を交えたカンファレンスを持ち、翌日所定の実習記録用紙に記入し提出する。

． 研究方法

1. 研究対象および倫理的配慮

研究対象は、平成14年度成熟期看護学実習を終了した学生77名のうち、研究の趣旨・方法および協力の有無がその後の教育に影響しないこと、記載にあたっては個人が特定できないように十分配慮することを口頭と文書で説明し、書面で同意の得られた学生73名のデイケアにおける看護学実習記録である。

## 2. 分析対象

分析対象は、実習記録のうち「この実習で学んだこと・感じたことを書いてください」の記述内容である。

デイケアにおける看護学実習記録用紙の構成は表1に示す5項目である。このうち、5. は、実習全体を通して学生が学びとなったという自覚のある内容が書かれていると捉えられ、この内容を分析し明らかにすることは、デイケアにおける看護学実習のあり方を評価し、よりよい実習にしていけるために意義があると考えた。

表1. デイケアにおける看護学実習記録用紙の構成

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. このサービスを利用している成熟期の人々はどんな人たちでしたか |
| 2. サービスの機能はどのようなものでしたか            |
| 3. 他との連携はどうなっていましたか               |
| 4. 看護の役割はどのようなものでしたか              |
| 5. この実習で学んだこと・感じたことを書いてください       |

## 3. 分析方法

分析はまず、記述内容を「学生が学んだことは何か」という視点で読み、意味内容毎に1記述とし、できるだけ表現された言葉を用いて要約した後、類似性に基づいて分類整理した。なお、全分析過程は5名の成熟期看護学教育研究者で合意が得られるまで必要に応じて記述内容に戻って検討を繰り返した。

## 結果

「学んだこと」として述べられた内容は、合計302記述であり、1人あたり2～11記述、平均4.1±1.6記述であった。

これを分類・整理した結果【デイケア利用者の特性】【デイケアの役割・機能】【デイケアの雰囲気と1日の流れ】【デイケアに求められるケア】【デイケアの効果】【デイケアの現況と課題】【デイケアにおける看護職と介護職の役割】【デイケアの看護職に求められる能力】【他職種との連携の重要性】【家族との連携の重要性】【家族介護の負担の大きさ】【援助方法】【人間が活動す

ることの意義】【人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること】【痴呆症状】の15項目に分類された。(表2)

### 1. デイケア利用者の特性

【デイケア利用者の特性】には【デイケア利用者は多種多様であること】【デイケア利用者には自立度の高い人が多いこと】【デイケア利用者にデイケアを楽しみにしている人が多いこと】【利用者は生き生きと楽しんでいる人が多いこと】の4分類が含まれた。

### 2. デイケアの役割・機能

【デイケアの役割・機能】には【デイケアの在宅を支える役割・機能】【デイケアの役割の特徴】の2分類が含まれた。

### 3. デイケアの雰囲気と1日の流れ

【デイケアの雰囲気と1日の流れ】には【デイケアにおける職員と場の雰囲気】【デイケアの1日の流れとサービス内容】の2分類が含まれた。

### 4. デイケアに求められるケア

【デイケアに求められるケア】には【自立支援の重要性】【楽しみが得られるレクの工夫の必要性】【耳を傾け声かけすることの大切さ】【利用者の安全確保の重要性】【健康的生活への支援の必要性】【多くの利用者を同時にみることの大切さ】【デイケアの継続利用のための工夫の必要性】【気が抜けない高齢者ケア】【身体能力に応じたケアの必要性】【痴呆の特性・レベルに応じたケアの必要性】【利用者個々に合わせたケアの必要性】11分類が含まれた。

### 5. デイケアの効果

【デイケアの効果】には【会話・交流・外出などがよい刺激になっていること】【作品の完成がよろこび・生きがいにつながっていること】【リハビリの効果があること】【デイケア利用により生活のメリハリがつくこと】【身体の異常をすぐにキャッチし適切な援助が受けられること】【デイケア利用は家族の介護負担軽減につながっていること】【デイケアは精神的ケアの意味が大きいこと】【よい影響があること】の8分類が含まれた。

### 6. デイケアの現況と課題

【デイケアの現況と課題】には【マンパワー不足】【デイケアを利用できない高齢者がいるということ】【サービス充実の必要性】【スケジュールが過密であること】

表2. 学生がデイケアにおける看護学実習で学んだこと

大分類	小分類	記述内容の要約例
デイケア利用者の特性	デイケア利用者は多種多様であること	デイケアの対象者には健康状態や介護度が様々な人々が利用していること デイケア利用者はおしゃれな人が多いこと
	デイケア利用者には自立度の高い人が多いこと	デイケア利用者はADL自立度が高い人が多いこと 病院とは異なり、ほとんどの部分で自立している人が多いこと
	デイケア利用者にデイケアを楽しみにしている人が多いこと	デイケアの日を心待ちにした利用者が多かったこと 利用者が人との交流ができることを楽しみにしていること
	利用者は生き生きと楽しんでいる人が多いこと	デイケアで組まれているプログラムによって利用者が生き生きと楽しんでいること デイケア利用者が生き生きと楽しんでいること
デイケアの役割・機能	デイケアの在宅を支える役割・機能	デイケアは、在宅での生活を維持していくために重要な役割を担っていること デイケアの目的は、生活の基盤である家庭での機能維持や回復の支援であること デイケアでは日常生活のできない部分をできるようにケア・訓練をするところ
	デイケアの役割の特徴	デイケアは、日中活動し、夜間睡眠をとるという生活のリズムを整える役割を果たしていること
デイケアの雰囲気と1日の流れ	デイケアにおける職員と場の雰囲気	デイケア施設は、利用者の作品が飾られ、利用者同士や職員との挨拶など暖かい雰囲気にあること デイケアの場は、明るく、個人のペースが保持されている場であること
	デイケアの1日の流れとサービスの内容	デイケアの1日の流れ デイケアのサービス内容
デイケアに求められるケア	自立支援の重要性	在宅が基本の利用者にとって、自立した日常生活を重視した接し方の重要性 その人の力を最大限に引き出していくためにも見守ることの大切さ
	楽しみが得られるレクの工夫の必要性	在宅療養を継続していくために、利用者がデイケアを積極的に利用するよう、レクやリハビリを楽しいものにしていくことの必要性 利用者が楽しめるようなレクリエーションの工夫の必要性
	耳を傾け声かけすることの大切さ	利用者に受け入れられる言葉かけの必要性 利用者同士の話しに耳を傾けることの大切さ
	利用者の安全確保の重要性	スタッフは、問題が発生しないよう、責任をもって家まで送り届ける、荷物の管理をする、1人1人に声をかける等をしていること 高齢者施設での感染対策の重要性
	健康的な生活への支援の必要性	デイケアは、健康管理だけでなく心のやすらぎや楽しみも必要であること 生活支援をする介護と、健康管理をする看護の両方が必要であること
	多くの利用者を同時にみることの大切さ	デイケアのスタッフが大勢の人に同時に心を配ることの重要性 利用者数が多いため、1人1人に言葉をかけ、全体を観察することの大切さ
	デイケアの継続利用のための工夫の必要性	デイケアでは利用者個々に合った、リハビリで、かつ楽しみながら長期的に続けられる工夫がされていたこと、また、その工夫の必要性 デイケアを継続して利用することの大切さ
	気が抜けない高齢者ケア	対象が高齢者であるため、事故防止など注意が必要なことが多く、気が抜けない時間が継続されること 老人に何度も同じことを聞かれたり、聞き取り難い言葉を理解したり、大きな声で話をするのは大変なエネルギーが必要であること
	身体能力に応じたケアの必要性	健康状態や介護度が様々な利用者個々にあったケアの必要性 身体機能障害に応じた食事ができるよう、能力に合わせた自助具の準備の必要性
	痴呆の特性・レベルに応じたケアの必要性	痴呆のレベルを見極めたコミュニケーションの必要性 痴呆性高齢者個々のレベルを知って対応する必要性
	利用者個々に合わせたケアの必要性	利用者が工夫している機能障害を補う方法や・考え・思いをとらえ、尊重しながらケアをすることの重要性 利用者一人一人の性格、その人らしさ、を支える援助の大切さ
	会話・交流・外出などが良い刺激になっていること	デイケアを利用することは、同年代の人々との交流ができ、良い刺激になること デイケアは外出、環境の変化により良い刺激になること
デイケアの効果	作品の完成がよこび・生きがいにつながっていること	個々の利用者によって、作る作品が異なっていたが、作る過程や完成させることが喜び・生きがい・生活の張り・生き生きした姿に繋がること 利用者にとって、作品が完成することは達成感や他者にみられることのよこびにつながる
	リハビリの効果があること	在宅生活し、動くことがリハビリになる高齢者にとっては、良い場所であること デイケアを利用しリハビリで、麻痺や痺れがあっても動くようになって喜んでいる人がいること
	身体の異常の早期発見と、適切な援助が受けられること	診察室があるので安心してケアを受けることができること 定期的な利用者は、経過や異常の早期発見ができる場になっていること
	デイケア利用により生活のメリハリがつくこと	高齢者はデイケアを利用することで、自宅にこもることなく、時間を上手に利用していること 身体障害のある人にとって、外出することだけでも意味があり、入浴を楽しむことで生活にメリハリができ、生きがいになること
	デイケア利用は家族の介護負担軽減につながっていること	デイケアによる利用者の精神的な安定が介護者の負担軽減になること デイケアの利用によって家族は介護から開放され自由な時間が持てるという利点があること
	デイケアは精神的ケアの意味が大きいこと	デイケアは生活リハビリや機能回復の意味より精神的ケアの意味が大きいこと
	よい影響があること	デイケアは、利用者にとっても、家族にとっても利点の多いサービスであること デイケアを利用することは利用者にとってよい影響があること

表2. 学生がデイケアにおける看護学実習で学んだこと (つづき)

大 分 類	小 分 類	記述内容の要約例
デイケアの現況と課題	マンパワー不足	少人数の職員で40名の利用者の観察, 個々のペースや好みに合わせたケアの提供は大変であること 40名の利用者を見ていくことの大変さ
	デイケアを利用できない高齢者がいるということ	利用者制限があり, 利用できない高齢者もいること デイサービス利用希望者で, 利用できないひとがいること
	サービス充実の必要性	年齢も居住地域も状態も異なる利用者で, 提供されるサービスに馴染めない利用者もあり, 個々の利用者に適し, 満足でき, QOLの向上に繋がるサービスの提供の工夫の必要性 サービスの充実の必要性
	スケジュールが過密であること	デイケアの1日のスケジュールは過密であったこと 利用者が楽しく過ごすことができるよう, レクリエーションや入浴は楽しかった反面, 疲労が大きいこと
	施設整備の必要性	利用者にとって安全で楽しく過ごせる施設であることの重要性 施設設備の整備が求められること
	デイケアのサービス競争が激しいが勝ち残っていかなければならないこと	デイケアにおけるサービスの競争が激しく, 建物, 医療機器, 質の高いケアの提供などにより勝ち残っていかなければならない現実にあること
	働く人の心のあり方によってサービスの質が異なること	デイケアで働く人の心のあり方によってサービスの質が異なること
	利用者や地域の人への情報提供の大切さ	地域の人へのデイサービスに関する情報提供の大切さ デイケア利用者にデイケアを利用することの意義が理解できるような方法で働きかけることの必要性
	利用者個々に応じたサービスが提供できていないこと	利用者個々に応じた適切なサービスが提供できていないこと
デイケアにおける看護職と介護職の役割	看護職と介護職の体制と役割	看護職と介護職の各々の役割 デイケアでは介護職が多くを占めていたこと
	デイケアにおける看護職の役割	看護職は介護職に対して技術や医療に関する知識を提供するという教育的役割があること 看護職は健康管理だけでなく, QOLの向上や介護者の負担軽減, リハビリなど, 様々な役割があること
デイケアの看護職に求められる能力	デイケアの看護職に求められる能力	デイケアの看護師は, 何にでも対応できる判断力が求められ, 責任が重いこと デイケアの看護師は, ケアへの確固たる根拠と, 自信と柔軟性を持ち合わせていなければならないこと
家族との連携の重要性	家族のニーズ把握の重要性	デイケア利用者の生活を支えていくためには, 家族のニーズにも応えていくことが必要であること 家族と連携していくために, 家族の考え, 思いを知っている必要性
	家族との連携の重要性	利用者のデイケアと家庭での変化を踏まえ, 家族との連絡をとりながら, 家庭での生活も支えていくことの大切さ 高齢は身体の状態が変化しやすいために, 家族と連絡をとり, 情報交換をすることの大切さ
他職種との連携の重要性	他職種との連携の重要性	その人に合ったケアが提供できるよう, 職員間で調整することなどの工夫の必要性 高齢者の能力をアセスメントし, 介助者全員が情報を共有することで, ケアの統一を図ることの必要性
家族介護の負担の大きさ	痴呆高齢者を在宅で看ることの困難さ	痴呆の方と生活する家族の大変さ 痴呆が重度になった高齢者を在宅でケアしていくことの困難さ
	家族の介護負担が大きいこと	家族の介護負担が大きく在宅介護は難しいこと 介護環境が十分に整っていない家庭で介護をすることは家族にとって負担であること
援助方法	排泄の援助方法	失禁など排泄のコントロールができない人の対応方法 排泄介助時の適切な誘導の仕方, 関わり方
	痴呆老人への援助方法	痴呆性老人への接し方, 話掛け方 痴呆性老人とのコミュニケーションの取り方
人間が活動することの意義	人間が活動することの意義	人間が活動することの大切さ 普段何気なく行っている ADL は人が意欲をもって生きていくのに大切であること
人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること	人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること	人間が老いて死んでいくのは自然なプロセスであるということ
痴呆症状	痴呆症状	痴呆症状

【施設整備の必要性】【デイケアのサービス競争が激しいが勝ち残っていかなければならないこと】【働く人の心のあり方によってサービスの質が異なること】【利用者や地域の人への情報提供の大切さ】【利用者個々に応じ

たサービスが提供できていないこと】の9分類が含まれた。

## 7. デイケアにおける看護職と介護職の役割

【デイケアにおける看護職と介護職の役割】には【看



護職と介護職の体制と役割] [デイケアにおける看護職の役割] の2分類が含まれた。

## 8. デイケアの看護職に求められる能力

【デイケアの看護職に求められる能力】には [デイケアの看護職に求められる能力] の1分類が含まれた。

## 9. 他職種との連携の重要性

【他職種との連携の重要性】には [他職種との連携の重要性] の1分類が含まれた。

## 10. 家族との連携の重要性

【家族との連携の重要性】には [家族のニーズ把握の重要性] [家族との連携の重要性] の2分類が含まれた。

## 11. 家族介護の負担の大きさ

【家族介護の負担の大きさ】には [痴呆高齢者を在宅で看ることの困難さ] [家族の介護負担が大きいこと] の2分類が含まれた。

## 12. 援助方法

【援助方法】には [排泄の援助方法] [痴呆老人への援助方法] の2分類が含まれた。

## 13. 人間が活動することの意義

【人間が活動することの意義】には [人間が活動することの意義] の1分類が含まれた。

## 14. 人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること

【人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること】には [人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること] の1分類が含まれた。

## 15. 痴呆症状

【痴呆症状】には [痴呆症状] の1分類が含まれた。

## 考察

### 1. デイケアにおける看護学実習の評価

#### 1) 記録用紙の構成と学びの検討

デイケアにおける看護学実習記録用紙は、この実習で学んでもらいたいと考える項目で構成されている。以下、15に分類された学びを記録用紙の構成と照らし合わせて考察する。

【デイケア利用者の特性】【家族介護の負担の大きさ】は、問い「このサービスを利用している成熟期の人々はどんな人たちでしたか」に対応する学びと捉えられよう。デイケア利用者だけではなく【家族介護の負担の大きさ】

も学んでいることは、職員からの説明に加え、実際に1日デイケアで高齢者とともに過ごし、その高齢者の送迎の体験を通じて家族のありようを実感できたためと考えられる。

【デイケアの役割・機能】【デイケアの雰囲気と1日の流れ】【デイケアの効果】は、問い「サービスの機能はどのようなものでしたか」に対応する学びと捉えられよう。デイケアのサービス内容は「病状が安定期にあり、計画的な医学管理の下におけるリハビリテーションを要すると主治医等が認めた要介護者等について、介護老人保健施設、病院または診療所において、心身の機能の回復を図り、日常生活の自立を助けるために必要なリハビリテーションを行う<sup>1)</sup>」とされているが、学生は、このサービスが求めている効果を「リハビリの効果があること」以外にも「会話・交流・外出などが良い刺激になっていること」[デイケア利用により生活のメリハリがつくこと] [デイケア利用は家族の介護負担軽減につながっていること] など、幅広く学ぶことができていた。

【デイケアにおける看護職と介護職の役割】【家族との連携の重要性】【他職種との連携の重要性】は、問い「他との連携はどうなっていましたか」に対応する学びと捉えられよう。【家族との連携の重要性】について、デイケア・デイサービス実習での学生の学びを研究した水主<sup>2)</sup>は、学生は送迎時に必ず職員が家族と連絡を取り合ったり連絡ノートの利用によって家族との連携を密にしていることを学んでいたと報告しており、今回の実習で実際に送迎を体験したことは、この学びの内容に大きく影響していたと思われる。

【デイケアに求められるケア】【デイケアの看護職に求められる能力】は、問い「看護の役割はどのようなものでしたか」に対応する学びと捉えられよう。看護の役割について、学生は、望ましい姿、あるべき姿を学んでいたといえる。本学学生の手術室実習を通しての学生の学びを報告した奥村ら<sup>3)</sup>は、「手術室という緊張感の高い場所において、短い実習時間内での看護について多くの学びが得られたのは、領域別実習に至るまでに、学生自身に看護の意味を理解し、捉えていく能力が養われていたからである」と考察している。今回の結果も、本学学生が看護の意味を理解し捉えていく能力が養われていたために、ケアの実際から、必要とされている看護

を見出すことができたのではないかと考える。

【デイケアの現況と課題】【人間が活動することの意義】【人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること】などは、記録用紙の問いに対応しない学びであった。学生は、教員が学んでもらいたいと考える4項目以外にも学んでいることから、デイケアにおける看護学実習が有意義な実習であったといえよう。

## 2) 実習方法の評価

【デイケアを利用できない高齢者がいるということ】【デイケアのサービス競争が激しいが勝ち残っていかなければならないこと】などは、説明を受けるか学生が質問しなければ学べないことであった。これらの学びが得られた理由として、事前に教員が成熟期看護学実習の目的、デイケアにおける看護学実習の目標を説明し、実習方法を打ち合わせたことにより、デイケアの実習担当者や職員が意識的に学生に説明したことが考えられる。また、学生にも、記録用紙の構成を意識し、実際に見るか、見て分からないものは直接尋ねるよう指導しており、この両方が、1日の実習でこれだけの学びができる要因になっていると思われる。

また、【デイケア利用者には自立度の高い人が多いこと】【利用者は生き生きと楽しんでいる人が多いこと】【デイケアの看護職に求められる能力】など、入院・入所している高齢者や、そこでの看護職の活動に関する実習を通じて得た体験と比較して捉えた学びがみられた。さらに、【人間が活動することの意義】【人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること】はデイケア特有というより、高齢者ケア施設での実習中にデイケアにおける看護学実習が行われたことで、さまざまな高齢者のありように触れた結果、捉えた学びと考えられる。入院・入所の高齢者の理解には、ややもすると健康障害の側面が強調されてしまう傾向があるのに対して、デイケアを利用している高齢者は、生活の基盤が在宅にあること、著しい健康障害を持つ人が少ないことなどから、健康障害より加齢に伴う変化としての捉え方が自然に学べたのではないだろうか。その結果、高齢者観を広げることにつながったと捉えられないだろうか。

## 2. よりよい実習にするための今後の取り組み

今回は、学生全体でどのような学びがあったのかを明らかにしている。学生の学びは15に分類されたが、1

人あたり2～11記述とばらつきがあること、実習は1～5名に分かれて行ったことから、実習後、学内で、学生全員が学びを共有する機会を設けることを検討する必要がある。また、今回明らかになった学生の学びを来年度の実習打ち合わせ時に、臨地指導者やデイケアスタッフに示して共有化ができれば、一層実習の意義が意識され、学生にとってより学びの多い実習につながっていくのではないかと考える。

## 3. 研究の限界と今後の課題

本研究は、実習記録の記述内容を分析したものである。学生は学んでいるが記述しなかった「学び」があったかもしれないという点に関しては本研究の限界である。

また、成熟期看護学実習が始めての領域別実習である学生と、他の領域別実習を終了している学生との学びの違いも推測される。実習時期別にも学びの内容を検討し、学生のレディネスに応じた実習指導のあり方を検討していく必要がある。

## まとめ

本研究は、学生がデイケアにおける看護学実習を通してどのような学びがあったのかを明らかにすることを目的とし、実習記録から「学んだこと」の内容を検討した。平成14年度成熟期看護学実習でデイケアにおける看護学実習を行った者のうち、研究に同意の得られた73名の実習記録「この実習で学んだこと感じたことを書いてください」の記述内容を分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. 学生の学びは、【デイケア利用者の特性】【デイケアの役割・機能】【デイケアの雰囲気と1日の流れ】【デイケアに求められるケア】【デイケアの効果】【デイケアの現況と課題】【デイケアにおける看護職と介護職の役割】【デイケアの看護職に求められる能力】【他職種との連携の重要性】【家族との連携の重要性】【家族介護の負担の大きさ】【援助方法】【人間が活動することの意義】【人間が老いて死んでいくのは自然のプロセスであること】【痴呆症状】の15に分類された。
2. 学生は、教員が学んで欲しいと考えていた項目だけでなく、幅広く学ぶことができていた。
3. 1日で、多くの学びが得られた要因として、実習前にデイケア担当者に実習目標を説明し、実習方法を打

ち合わせておくこと、学生にも実習目標に戻って動機付けをし、積極的に参加するよう指導したことがあげられた。また、高齢者ケア施設実習中にデイケアにおける看護学実習を行うことで、さまざまな健康状態で生活を営んでいる高齢者の理解が深まっており、この点で意義ある実習方法であることが確認された。

4. 今後は、実習後に学内で学生間で学びを共有できるような機会を設けるよう、実習全体とのバランスを踏まえて検討していく必要がある。

## 謝辞

本研究の趣旨を理解し、記録を提供してくださった学生の皆様に感謝いたします。また、ご多忙の中、実習指導してくださった実習施設職員の皆様に深謝いたします。なお、本報告は、第8回日本老年看護学会で発表したものに加筆、修正したものである。

## 文献

- 1) 財団法人厚生統計協会：国民の福祉の動向，50(12)；208，2003.
- 2) 水主千鶴子：通所施設（デイケアセンター・デイサービスセンター）における看護学生の学び，和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要，6；77-83，2003.
- 3) 奥村美奈子ほか：手術室実習を通しての学生の学び，岐阜県立看護大学紀要，3(1)；89-94，2003.

(受稿日 平成16年2月10日)